

1 本県の子育ての現状と課題

1 固定的性別役割分担意識の高さ(全国一)が男女の働き方等に影響

○「夫が仕事、妻は家庭」を肯定する者の割合が高い都道府県では、男性の長時間労働者の割合が高く、女性の有業率が低い傾向がある
(H27男女共同参画白書より)

○女性の就業率全国一低い ○男性の帰宅時間19:46 (全国ワースト4位)

○第1子出産後の妻の約5割が退職 [実態調査]

○男性の育休取得率 3.2% <民間正規従業員> (全国5.1%)

○周囲からの男性への「稼ぐこと」への期待

○父親の育休取得は、母親側から歓迎しない声も (実態調査インタビュー対象)

2 データが表す母親の「孤育て」 その解消のためには 父親の子育て参画は不可欠

・核家族率 64.1% (全国1位)
[H27国勢調査]

・専業主婦率 40.5% (全国1位)
[H27国勢調査]

・男性の帰宅時間 19:46
 (全国ワースト4位) [H28社会生活基本調査]

・子育てに精神的・肉体的不安感・負担感のある母親 約50%
[H30奈良県結婚・子育て実態調査]

・育児の夫婦の分担状況
 妻に8~9割偏っている [実態調査]

3 母親の精神的・肉体的負担があるのは、「産後すぐ」 その軽減のためには産後早期の父親の関わりが重要

・母親の子育ての一番しんどい時期は「出産前後」・「新生児期」 [実態調査]

・産後うつ高リスク者になる割合は、産後2週目が25%で一番多い [国立育成医療研究センター]

・母子家庭になったときの子どもの年齢は0~2歳が一番多い [H23厚労省全国母子世帯等調査]

・産後クライシス 出産後2-3年の間に、夫婦仲が悪化する現象 [H24年NHKが提唱]

2 令和元年度検討結果

父親の関わりは、父親が産後の早い時期から妻に寄り添うことの重要性を示し、その寄り添い方法までを示す必要がある

7/8 こども・子育て応援県民会議・7/24 男女共同参画県民会議での議論から

○夫婦で子育てのしんどさも喜びも分かち合うことが大事

○赤ちゃんの母親が一番つらいことは寝られないこと。このしんどさがいつまで続くのかと不安になる。

○産後の母親のホルモンバランスや心身の状態を、父親は知識として知っておくほうがよい。

○不慣れな夫の子育ては虐待につながる。

○夫が給料を稼ぎ妻が子育てをするという考え方「役割分担意識」やこうあるべきという周りからの価値観の押しつけが子育ての現状に反映されている。

○夫の自立(家事分担)妻の自立(夫に分担させるようにいえる)ができれば、女性の有業率は伸びるのでは

○男女がともに働き、ともに子どもを育てることは喜びであるというメッセージ大事

○父親の育休中、「父親役割」を意識するより、夫婦でともに赤ちゃんに向き合う休暇という視点も必要

○企業の子育て支援も進み出した。地域に出られない新生児期ほど、地域が積極的に家庭に関わるのが大事

○数十年前は女性でも育休を取得できなかった。男性の育休についても、少しずつ企業・従業員双方の意識が変化している。

○企業は人手不足であり、有休取得も困難な面も。企業の意識改革まだ必要

3 取組の方向性

○産後早期に、父親が母親に寄り添い、夫婦で一体感を持ち子育てできるように父親が産休を取得することが当たり前になる環境・風土づくりを推進

○父親の子育て参画や産休取得には、企業側の理解促進や職場環境の整備が必要なことから、企業と連携し、「奈良県パパ産休プロジェクト」と称し、取組を推進